
それぞれの想い

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それぞれの想い

【Nコード】

N5224B

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

快斗×青子のバレンタイン物語。初の試み、リアルタイム進行です。本編4話＋後書き1話。2月12日～15日の彼らの様子をそれぞれの視点で描いてみました。楽しんでいただけると嬉しいです。

2月12日　　（青子）

（2月12日）

みんな～！こんにちは。中森青子です。江古田高校の2年生なんだ。でね、青子のお父さんは、警視庁の2課で、怪盗キッドっていう悪党を長い間追いつづけてる刑事さんなんだよ！！

でも、青子は怪盗キッドなんて大っきらい！

だって、青子からお父さん取って行っちゃうんだもん……。

でもね、キッドって人気あるんだって。

いつも、盗む前に予告状を出して、華麗に盗んでいくからって……。

マジシャンみたいだって、快斗も言うの……。

あ、快斗ってね、青子の幼なじみなんだけど、キッドの大ファンなんだ……。

でもね、青子は快斗のマジックの方が好きだな～。

青子をいっつも元気にしてくれるの！！

青子がまだ小さかった時に、時計台の下でお父さんが待ってたら、ポン！ってバラの花を出してくれたんだよ！

あの時、本当に嬉しかったんだ！！

でもね……

今日はみんなにその快斗のことで相談があるの……。

みんなは、2月14日がバレンタインデーだって知ってるよね？
女の子が好きな男の子にチョコレートをあげる日。

でもね、青子の周りにはそのバレンタインデーを知らないバカがいたの・・・

予想がつくと思うけど、それが快斗なのよね・・・。

快斗、甘いもの好きだから、チョコレートも渡されたら全部もらっちゃうんだよね。

それに、快斗って、その・・・かっこいいから・・・。

頭もいいし、スポーツも出来るし・・・。

でも、女の子がバレンタインデーにチョコレートを渡してる意味を知らないなんて、乙女心を傷つけると思わない！？

青子はね・・・

そんな、バレンタインの意味も知らない快斗にチョコあげたって、悲しくなっちゃうから、今年はやめとこうかなって思ってるの。
どうかな？やっぱりあげたほうがいいのかな・・・。

2月12日　　＼青子＼（後書き）

こんにちは。ペロコです。

なんと、リアルタイム進行タイプの連載！今週中には終わるので、気楽に読んで下さい。

青子ちゃんは、初書きだったのですが・・・。

いかがでした？　なんだか青子ちゃんの話し言葉って難しい・・・。

それでは、また明日お会いしましょう♪

※詳しい後書きは、最後に書くので、今はこれぐらいで・・・

2月13日　　（快斗）

（2月13日）

オレは黒羽快斗！マジシャンだ。高校2年生。自分で言うのもなんだけど、スポーツ万能・しかも顔もいい！！

このオレ様に敵うやつなんかいないえ！

そんなオレが尊敬する人はこの世でたった1人。といっても、もうこの世にはいないけどね・・・。

その人物とは・・・！オレの親父・黒羽盗一！

親父も世界的なマジシャンだったんだけど・・・実は殺されちゃったんだ！

マジックのショーの途中に。

実はオレの親父はマジシャンともう一つ裏の顔を持ってたんだ。

それが、怪盗1412号・通称怪盗キッドだ！

そして、不老不死の力があるという“パンドラ”を狙ってる組織に殺されたんだ・・・。

で、今はオレが2代目怪盗キッドとして、“パンドラ”を探してその組織よりも先に発見し、粉々に砕いてやるために盗みを働いている。

何としても親父の仇は取ってやるんだ！マジシャンの誇りにかけて・・・！！

で、その天下の怪盗キッド様が現在悩んでいることがある。

それは・・・最近騒がれている、えっと・・・バレンケンシュタインのことだ！

バレンケンシュタインって何だ！？

青子に昔聞いたことあるんだけど、その時は思いっきり笑われたから、もう聞けねえんだよ・・・。ったく、あの時はさんざんコケにされたからなあ・・・。

そして、オレが癩しやくだけど・・・ものすごく癩しやくだけど、聞いたやつは、オレのお袋・・・。

ほかのヤツに聞けるか！！まあ、さんざんお袋にも笑われたけどな・・・。

で、分かった結果。

バレンケンシュタイン・・・じゃなくって、バレンタインというらしい。

そして、その日は女の子が好きな男の子にチョコレートをあげる日！！

みんな、知っててもらってたのか・・・？もしかしてオレだけ知ら

なかった・・・？

毎年、たくさんチョコもらってたからさあ・・・。

もしかして、みんなそういう意味でもらってたのかな・・・。じゃあ、悪いことした？

よしっ！

きちんと意味を知ったからには、今年からは本命1本で勝負だ！

問題のバレンタインは明日だ！

絶対にチョコの誘惑に負けやしねえぞ！！

2月13日　く快斗く（後書き）

こんにちは、ペロコです。

リアルタイム進行2日目。今回は快斗です。

えっと・・・一応「知った」ということでこのお話は進んでいきます。そこだけ知っておいて下さい。

さて、いよいよ明日はバレンタインデー当日。

快斗と青子の行方は・・・！？

では、また明日お会いしましょう♪

ペロコ

2月14日　くバレンタインデー当日く（前書き）

いよいよ今日はバレンタインデー！
バレンタインデーは快斗sideです。
では、どうぞく

2月14日　くバレンタインデー当日く

く2月14日く

い・・・いよいよ今日、問題のバ・・・バレンタインデーだ。
何としても青子のをもらおう！！絶対だ！

朝、青子はいつものようにやって来て、いつものように学校に来た。
さあ・・・ここからがオレの勝負のスタートだ！
学校中に漂うただよ甘い匂いの誘惑に負けちゃならねえ。今年は青子の
だけにするって決めたからな。うん。

すると、青子は、オレが心の中で重大決心をしている間にずんずん
と先に行ってしまった。
え？くれないの？

「・・・おい、青」
と言いかけた次の瞬間、後ろからドドドド・・・とすごい地響きが。
イヤ々な予感がして、おそろおそろ振り向くとそこには、人、人、
人・・・。

「「黒羽くん！！！！」」

ゲッ！すごい人。

と、いつもなら、「はーい！」ときちんと返事をするが、今日は違
う！

この甘い匂いになんとしても勝たねばならない！
ふと前を見ると、青子はもう教室まで行ってしまったようだ・・・。

よしっ!!ここは・・・

逃げよう!!

ということで、木に登ったり、窓から飛び降りてみると、忙しかった。

そして、なんとか撒くことに成功。といっても、授業が始まったから彼女たちが諦めただけだけどね・・・。

しゃあねえ・・・。今日は教室に行けそうにねえし、屋上で1日過ごすか・・・。

時間は経って、昼休み。

さすがに退屈してきて、なんかねえかなうと思ってたら、背後に人の気配。

「黒羽君・・・」

なんだ。紅子か・・・。

「なんだ？紅子？なんか用か？」

「ええ……。今日は教室にいらっしゃらないから、どうしたのか
と思ひまして……。毎年あれだけチョコをもらうのを楽しみにし
てたあなたなのに……。今年はどういった心境の変化かしら？」

「ああ……。今年は青子のしかもらわねえって決めてるからな。」

「あら……。それじゃ……」

「ちゃんと意味も知ってるよ。今年は今までのオレとは違うからな。
もちろん、紅子のももらわねえぜ？」

「安心して。今年は何も持っていないせんわ。以前は、私のを食べて
いただこうと思ひましたけど、断られましたから……。キッドに
ね……」

「なんでそこでキッドが出てくるんだよ？」

「クスッ。まあ、いいわ……。頑張ってくださいね。青子さん、
ちょっと悩んでる雰囲気だったわよ？もしかしたら……」

「ヘッ！青子に限ってそんなことあるわけねえって！」

「それでは……。黒羽くん、頑張ってるね。」

……。アイツ、何しに來たんだ？

そして、放課後。

屋上から青子の姿が見える。おしっ！帰るか・・・。

「青子っ！！」

「か、快斗！？あんた、今日どこ行ってたの？！」

「ああ・・・屋上に・・・」

「ふうん・・・」

あれ？いつもなら「授業さぼっちゃダメじゃない！」とかくるのに・・・。

しかも、オレまだもらってねえぞ！？青子のチョコ。

「・・・なんだよ・・・くれねえのかよ、チョコ。」

・・・ハッ！つい口に出してしまったじゃねえか！

「うん。」

・・・ハイ？・・・

「今、うんって言った？」

「言ったよ？」

「今まではくれてたじゃん！なのに、何で今年に限ってくれねえん

だよ！今日は・・・バ、バレンタインデーとかいうやつなんだろう！？」

・・・あっちゃー・・・もういい！ヤケクソだ！

「だから、くれよ！オレが甘いものスキだって知ってるんだろ！？」

ああ・・・めっちゃ恥ずかしい・・・なんでオレ青子にチョコ請求してんだ？

「・・・じゃあ、帰ったら作ってあげるから・・・もらってくれるの！？」

・・・え！？マジで？

「・・・おう・・・」

うわー。今絶対顔赤いわ・・・。

そして、帰りに青子の家に寄ってチョコ作ってもらったんだー！！そりやもう、めっちゃくちゃ甘くてオレ好み☆さすが青子！オレの好み分かってるよな。

それにしても今日は散々な一日だった・・・。
自ら墓穴掘ることになるとは思わなかった・・・。
というか、あれってオレ告白したってことになるの・・・か？

・
・
・
・
まあ、青子は深くは考えてねえだろうなあ
・
・
・
。

まあ、青子のチョコも食えたし、よしとするかな？

2月14日　くバレンタインデー当日く（後書き）

みなさま、こんにちは！ペロコです。

いよいよ今日はバレンタイン♪

みなさまはチョコ、どうしましたか？もらった？それともあげた？
様々な方がいると思いますが・・・。

快斗と青子は、こういった感じになりました。

一応、もらったけど、請求するという何ともいえない形に終わりました・・・（笑）快斗は、満足したらしいです。あれでも・・・。

青子は、あれから迷いに迷ってあげないことに決めてたらしいですね。まあ、そりゃ・・・ね。おとといの時点では快斗が「バレンタインの意味を知った」なんて知りませんからね。あげるということは本命になるし・・・ということであげないことに決めたみたいです。

さて、明日は、最終話。

2月15日は青子です。青子の14日の気持ちは？

それでは、また明日お会いしましょう！

2月15日　　（青子）

（2月15日）

みんな！こんにちは！中森青子だよ！

昨日は、問題のバレンタインデーだったんだけど、学校の帰りに快斗がね！

「なんだよ・・・チョコくれないのか？」

って聞いてきたんだ！だから、

「うん」

って言ったら、快斗、すねちゃうんだよ！？青子、ビックリしちゃったよ！

そしたらね、

「今まではくれてたじゃん！何で今年に限ってくれねーんだよ！？

今日は、えっと・・・バレンタインデーとかいうやつなんだろ？」

って・・・。

快斗・・・バレンタインのこと、知ってた・・・というか、誰かに聞いたのかも。

「だから、くれよ！オレが甘いもの好きだって知ってるだろ！？」
って、どこまでもえらそうなんだから・・・。

しょうがないなあって思って、つい

「じゃあ、帰ってから作ってあげるから、もらってくれるの？」
って聞いたら、顔赤くして「おう・・・」だって！

顔赤い快斗って目面しいんだよね。いっつも何考えてんのか分かん

ないの。

快斗いわく、「ポーカーフェイス」って言うらしいんだけど。
なんか目面しいもの、見れたな。

で、昨日、学校から帰って快斗にチョコ作ってあげたの！材料は一応・・・本当に一応だけだね！買ってあったから・・・。そしたら、喜んで食べてくれたんだー♪

なんだか、昨日は快斗チョコレート1個ももらえなかったらしくて・・・。青子におねだりしたのかな？

だって、いつもみたいに、自慢してこなかったんだもん・・・。快斗にしては、目面しいことなんだよね・・・。

やっぱり、白馬くんの方が人気あるのかな？快斗よりも♪

白馬くんもやっぱりかっこいいもんね☆

2月15日　＼青子＼（後書き）

みなさま、こんにちは。ペロコです。

はい、ここで本編は終了です。なので、あとは後書きだけ。

ということで、ここではあまり多くを語らないことにします。

昨日、快斗は青子ちゃんに告白したことになるのでは・・・？とか
なり考え込んでおられたようですが、青子ちゃんには「告白」の「
こ」の字も出てきません！（笑）それどころか、「すねてる」だっ
て！（爆笑）

快斗がかわいそうになってきました・・・（自分で書いてて）もう
！青子ちゃんってばあ・・・。少しは快斗に気づいてやれよ！って
ね・・・。

はい、ここではこれぐらいで。

では、後書きで・・・

あとがき

みなさま、こんにちは。ペロコです。

短期集中連載・リアルタイム進行という新しいパターンの小説を書いてみました。

いかがでしたでしょうか？

このお話、もともとはうちの小説「服部平次in悩み相談室」の評論欄に、

m i c k y様より「快斗×青子の小説が読んでみたい」とのご提案をいただいたことから始まります。

当初は、青子が悩み相談室に来て、バレンタインのチョコをあげるか悩み、

その後日、再度やってきて報告する・・・という短編の予定でした。よって、快斗はまったくお話に登場する予定ではなかったのですよね。

しかし!!

快斗方面からも（うちが!）見てみたいなくと思ひまして（笑）

で、考え始めたら、それはそれは楽しくて・・・。

時期的にも、ちょうどバレンタインじゃん!とか、そしたらリアルタイム進みたいなのも面白いかも!とか、そういえば「まじっく快斗4巻」が出るじゃん!まじ快祭りじゃ〜!（笑）とか・・・。
なんともうまい具合に条件がそろいまして・・・。

そして、m i c k y様に「やりたいのですが・・・」とメッセにて頼んだところ、

快く了承して下さいまして・・・（m i c k y様、ありがとうございます）

います！）。

そして、こうして投稿するに至ったのであります！長々と説明スィマセン。

さて、お話の内容としましては、まあ読んで分かってくださってるとは思いますが、

快斗×青子のバレンタイン話。うちの他にも、様々な方がバレンタイン話を書いていらっしゃるので、その中にうちなんかが・・・とも思っただんですが、ここまで読んで

「楽しかった」とか「面白かった」とか思ってくださいってたら嬉しい限りです。

気が向いたら、ホワイトデー編なんかも書いてみたいな～と思います。

快斗は、青子ちゃんに何をすればいいのか悩む・・・の図（笑）

ところで、話を書いてて気づいたんですが・・・

うち、“1人称でしかお話書けないじゃ～ん！”とね。なんともビツクリです。

「キッドside」のお話を書くようになって以来、1人称でしかお話を書いていないんですね。というよりもむしろ、「キッドside」が全ての始まりと言いますか・・・。

そして、今回も1人称。必ず、快斗or青子視点で物語は進みました。

ナレーターさんが不必要なペロコ作品。常に誰かの視点でのお話となりそうです。

まあ、しばらくは「キッドside」を軸に、たま〜にこういった短編のようなものを書く予定です。（「キッドside」につまったら）

それでは、この小説を読んでさらには、こんな長々とした後書きまで読んでくださってありがとうございます。

これからも日々精進しつつ頑張って「キッドside」のお話も書いていこうと思いますので、評価・感想の方をいただけたら嬉しいです。

それでは、「キッドside」の次のお話でまた会えたらなと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5224b/>

それぞれの想い

2010年10月9日23時09分発行